

第5回 災害廃棄物の処理指針に係る検討会議 議事概要

日時：平成 23 年 12 月 7 日（水曜日）10 時から 10 時 50 分ごろ

場所：大阪府咲洲庁舎 30 階会議室

出席者：山本座長、飯田座長代理、児玉委員、藤川委員

事務局：大江環境政策監、矢追循環型社会推進室長、磯田資源循環課長、大西産業廃棄物指導課長、資源循環課 佃課長補佐、下村課長補佐、舟橋総括主査、栢原総括主査、藤田主査、小西主査

議題（1）前回までの結果と新たな府民意見について

- 前回の議事概要について、現在ホームページで公開している資料に一部訂正があったため、確認した。また、前回の議事録について確認した。
- 事務局から論点と検討会議の結果および東日本大震災の災害廃棄物処理の指針（骨子案）について説明があり、確認した。また、文部科学省が報道発表した横浜市におけるストロンチウムの調査結果について説明があり、確認した。
- 事務局から新たな府民意見について主な意見の紹介があった。

議題（2）放射線の影響に対する考え方について

- 事務局から大阪府の実態に合わせた被ばく線量の試算について説明があった。
- 試算した経路の中で作業員の被ばく線量が最も大きかったのは埋立作業を行う作業員であり、それを踏まえて焼却灰の目安を 2,000Bq/kg 以下、焼却前の災害廃棄物の目安を 200Bq/kg 以下としたいという説明があった。①2,000Bq/kg 以下を埋立の目安と考えてよいか、②200Bq/kg 以下を災害廃棄物の目安と考えてよいか、③試算の結果が十分に低い線量であるのかということについて意見を求めた。

※傍聴者から会議の進行を妨げる発言が多数あり、座長からの再三の注意や退室の命令に従わず、発言が繰り返されたため、議事進行が困難となり、本日の会議は打ち切られた。